

●魅力と活力あるまちづくりに向けて・・・

- 鶴崎地区は、昭和30年代以降順次区画整理が行われ、大分市の中核的な拠点として発展してきました。
- 鉄道やバスなどの公共交通の利便性が高く、公共施設も多く立地するなど、都市基盤が整っています。
- 道路の整備は、交通問題の解消だけでなく、歴史と伝統の息づく居住型拠点の形成や商業の活性化の契機となるものです。

●歴史と伝統、魅力があるまちを残していくことが重要です



●戸建住宅が多いなか高層住宅の開発も活発です



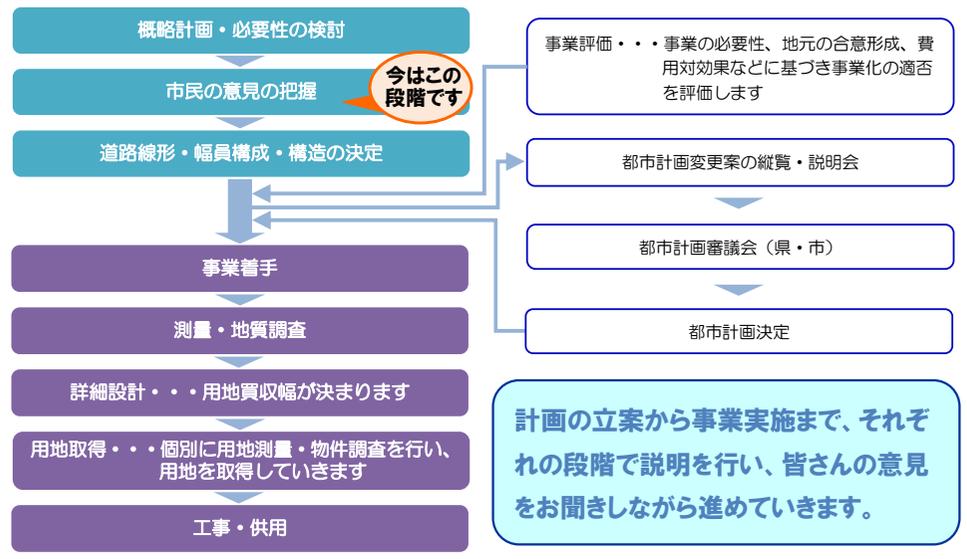
●公共公益施設が充実しています



●バスの本数も多く、JR鶴崎駅が近接するなど、公共交通の利用環境が整っています



計画検討・事業実施の流れ



〈連絡先〉大分県大分土木事務所 企画調査課
 TEL：097-558-2142 FAX：097-558-9141 e-mail：a17004@pref.oita.lg.jp

平成26年6月

国道197号線 志村～乙津間 4車線化に向けて

◆はじめに

- 大分県では、大分市東部地区の交通問題の解消を目指し、国道197号線の志村～乙津間の4車線化を検討しています。
- 国道197号線の志村～乙津間は、自動車交通量が多いにもかかわらず、道路の幅が狭く、車線運用も変則のため、慢性的な交通渋滞が生じています。
- また、歩行者や自転車の交通量が多いわりに歩道の幅が狭く、歩行者や自転車が安心して通行しにくい状況です。
- さらに、乙津橋は老朽化が進んでおり、今後も使い続けるには近い将来、大規模な補修が必要です。
- 道路の拡幅事業は、沿線のまちづくりにも大きく関係します。
- こうしたことから、計画の具体化に向け、早い段階から広く意見をお聞きしながら検討を進めてまいります。

国道197号をはじめ、市内東部地区は慢性的に混雑しています



●渋滞ポイントが連続しています

歩行者・自転車の交通量が多い一方で、地下道の昇降口や電柱が通行の障害となっています



●歩行者・自転車・バス待ち客が交錯しています

乙津橋の老朽化が進行しています



●乙津橋では大規模な補修が必要です

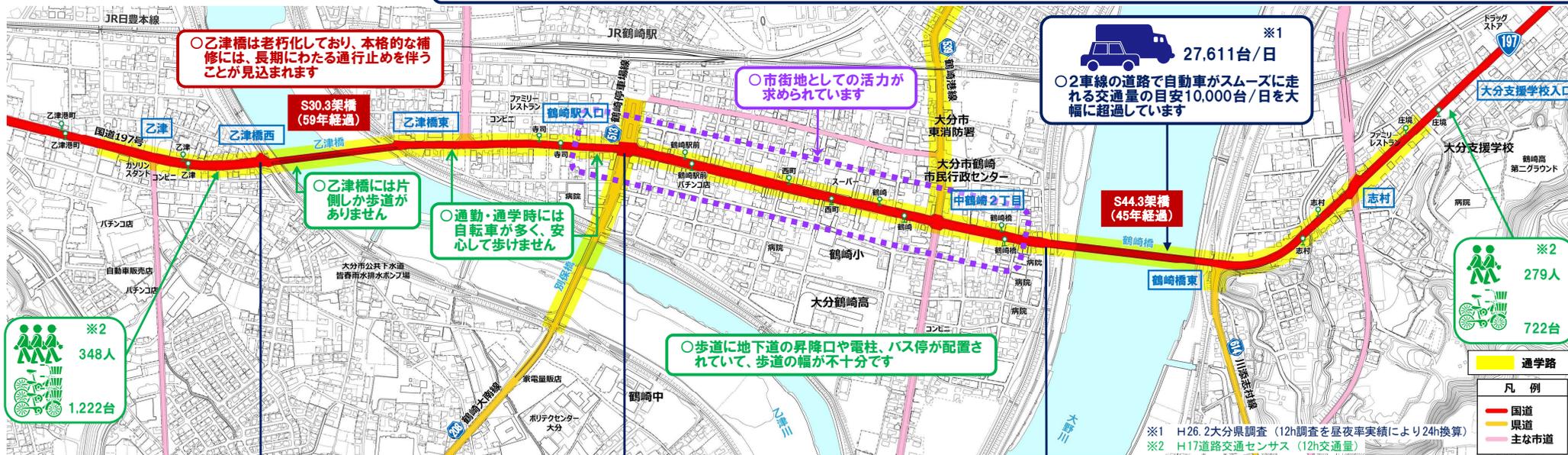
市街地としての活力が求められています



●沿道商店街では、近年商店数が徐々に減少しています

交通問題の解決に向けて

☆大分市東部地区における国道197号の交通混雑を解消するために、これまで、車線運用の変更(2006年)、大野川大橋有料道路の無料化(2010年)、交差道路の整備や交差点改良等により交通の分散を進めてきましたが、依然として交通量が多く、2車線の鶴崎橋及び乙津橋、変則的な車線運用の鶴崎地区は、交通のボトルネックとなっています。



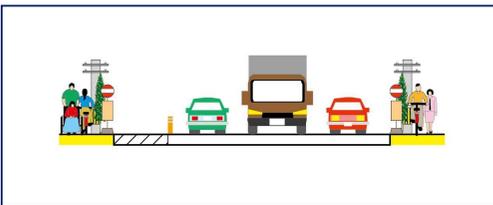
国道197号の車線数



●自動車の混雑を解消するには・・・

■車道を4車線化し、右折レーン整備、バス停車帯設置等により、車の流れが円滑化されます。またバスの定時性を確保することができます。

●現状は幅員が狭く、車線運用が変則的



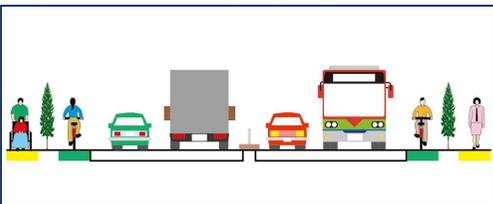
●完全な4車線化により十分な交通容量を確保するとともに、中央分離帯により安全性も向上します (国道210号 大分市羽屋)



●商業施設の出入りを考慮した中央分離帯の設置も考えられます (県道大分港線 大分市碩田町)



●完全な4車線化と自転車・歩行者の分離



●歩道を歩きやすくするには・・・

■歩道を広げ、電線類は地中化し、自転車通行帯を分離することで、歩行者・自転車利用者がともに安心して通行することが出来るようになります。

●自転車歩行者道の中で歩行者と自転車を分離した事例 (県道大分港線 大分市荷揚町)



●歩道と自転車道を完全に分離することも考えられます (国道53号 岡山市)



●乙津橋を安心して通行するためには・・・

■4車線化することで、新しい橋を通りながら、古い橋を工事する方法が可能となり、工事による通行止めを避けることができます。

●昭和5年架設のアーチ橋を取り外して補修を行い、継続利用した事例 (中川橋 名古屋市)



●4車線化して旧橋を架け替えた事例 (国道10号 大分市中戸次)

